

今年の史料集が出来るとこのシリーズにホリユームの少ない冊子で十分な史料集となるのだろうかと心配して皆さんには「高岡史料は板料の所か」って全文を、古文書のもっている通りにするとここに意義があるのだから、をしてみれば分かると思いますか、継続は力なりと言われている通りと私達の高岡市史料集が独自の勇行歴代、高岡所役人歴代、所会所務歴代内容的にも量的にも江戸期の高岡市についても見ておくべきものになったとあるか、満たされたい自分の生きざまのようなに生きてきたのか。そしてか。それを確かめたいのです。歴史を解決してくれる糸口はないか。糸口を讀み、解釈しなければなりません。それにしても、昨年は激動の年で、小学生を殺害して、その首を校門のし、女子高生の間ではルーズソックス桃発的なファッションが流行して何言われる売春に近いものまでがファッリつけることができず、子供の自主

目次

夫との思い出	新田 和子	3
早く逝きすぎたよ「二郎ちゃん」	奥田 淳爾	4
新田二郎さんのこと	保科 齊彦	6
新田先生の思い出	浦田 正吉	8
歴史学徒新田二郎さん賛嘆	久保 尚文	9
単刀直入の人	勝山 敏一	11
故 新田二郎先生の死を悼みて	大浦 美子	13
読解と解説と	黒川 総三	14
瑞龍院御書三幅	佐山久見子	16
新田二郎先生のご冥福をお祈りして	武部 保人	20
思い出	森田 久子	28
カンドク一考	柳沢 京子	30
新田先生をしのぶ	晒谷 和子	31
古文書講座のあゆみ		36
あとがき		37